道南太平洋海域スケトウダラニュース

平成 24 年度　第３号　　2013 年 1 月 25 日

北海道立総合研究機構　栽培水産試験場　調査研究部
TEL：0143-22-2327　FAX：0143-22-7605

道南太平洋スケトウダラ資源調査（計量魚探調査）結果

函館水試調査船「金星丸」により行われたスケトウダラ資源調査の結果をお知らせします。

- 調査期間：平成 25 年 1 月 15～18 日
- 調査海域：道南太平洋の水深 50～500ｍの海域

・魚群反応は胆振沖（登別から苫小牧）が中心。
・調査海域の平均反応量は、昨年同期を上回り、2010 年に次いで高かった。
・海底に張り付いた魚群反応は水深 150～200ｍ前後が中心。ただし、胆振沖では 50ｍ付近から魚群反応がみられた。
・漁獲物の体長（尾叉長）は、40cm 前後が主体であった。

１．スケトウダラとみられる魚群は、主に登別から苫小牧沖にかけて分布していました。その中でも、胆振海域の 176、179、182、185 海区に強い反応がみられました（図１，２）。

２．調査海域の平均反応量は、昨年同期を上回り、1 月の調査を開始した 2005 年以降では、一部のラインでしか調査ができなかった 2011 年を除くと、2010 年に次いで高い値となりました（図３）。

３．魚群反応は、水深 50m～500ｍの広い範囲で観察されましたが、海底に張り付いた反応は水深 150～200ｍが中心となっており、それより深い水深では海底から浮いた反応となっていました。なお、胆振沖（主に登別～白老）にかけては水深 50m 付近から反応がみられました（図２，４）。

４．トロール調査の結果、海底に張り付いた反応は、尾叉長 40cm 前後のスケトウダラ成魚が主体となっていました（図５）。成熟状態を調べたところ、雄は放精後、雌も産卵後または完熟卵（水子）を持った個体の割合が高くなっていました。

今年度のスケトウダラニュースは本号で終了となります。

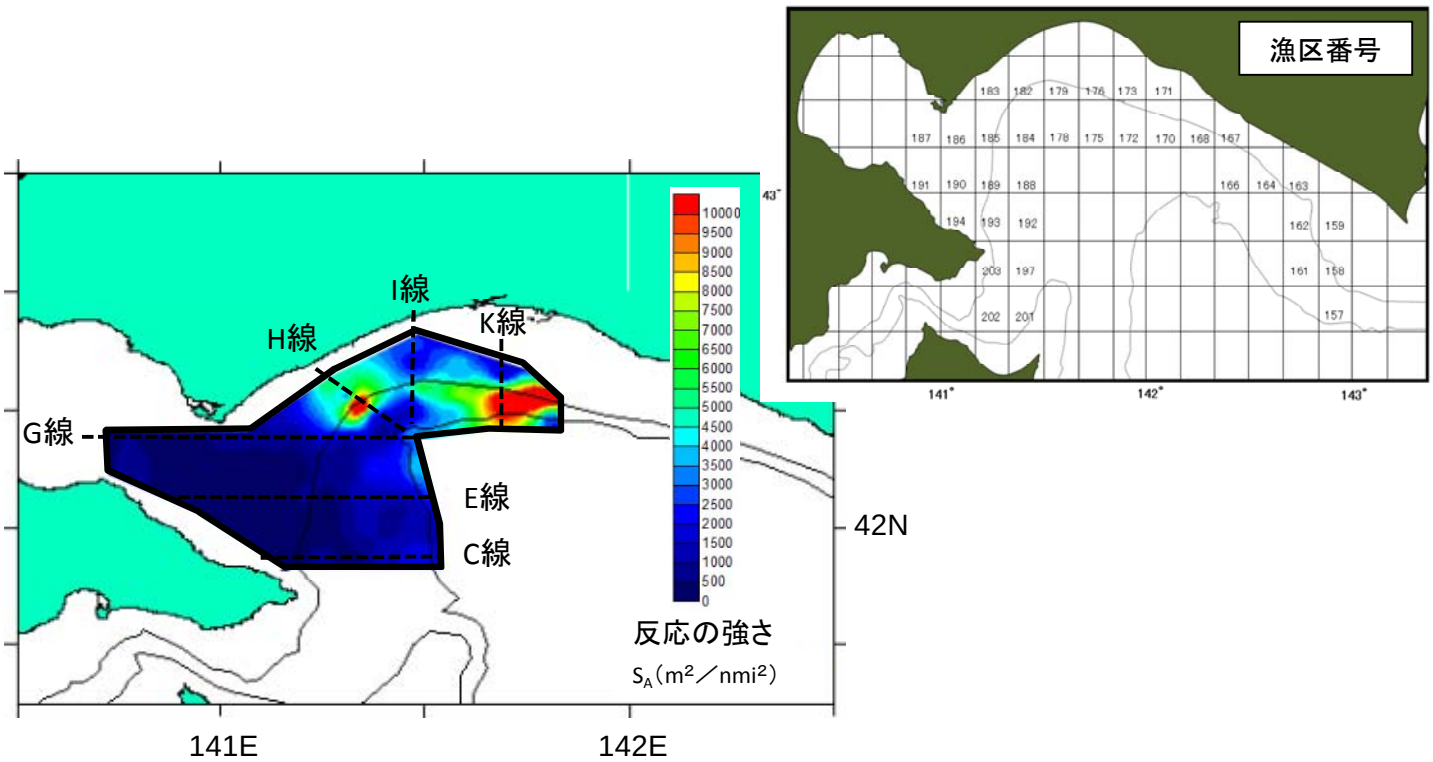

図1　調査海域における魚群の分布

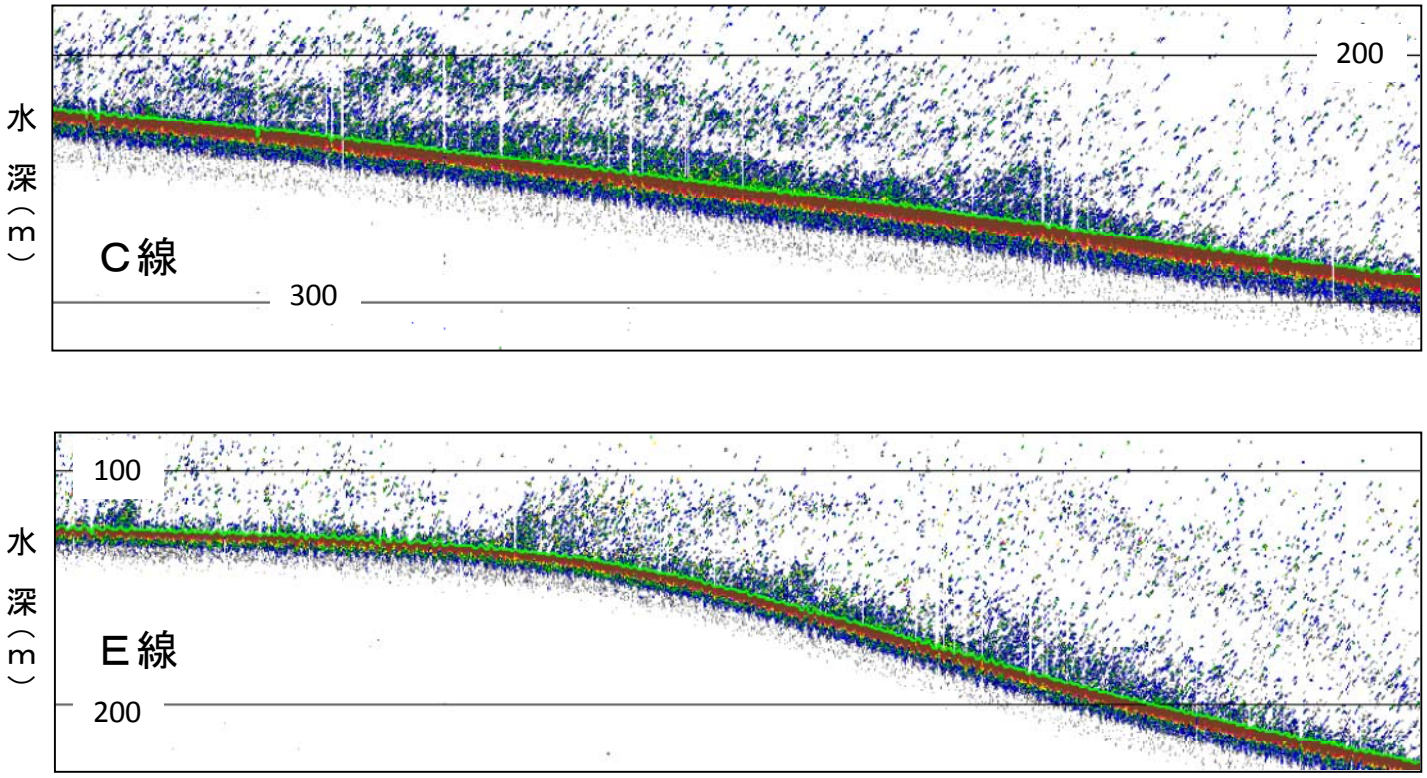

図2　魚群の分布状況（計量魚探画像）

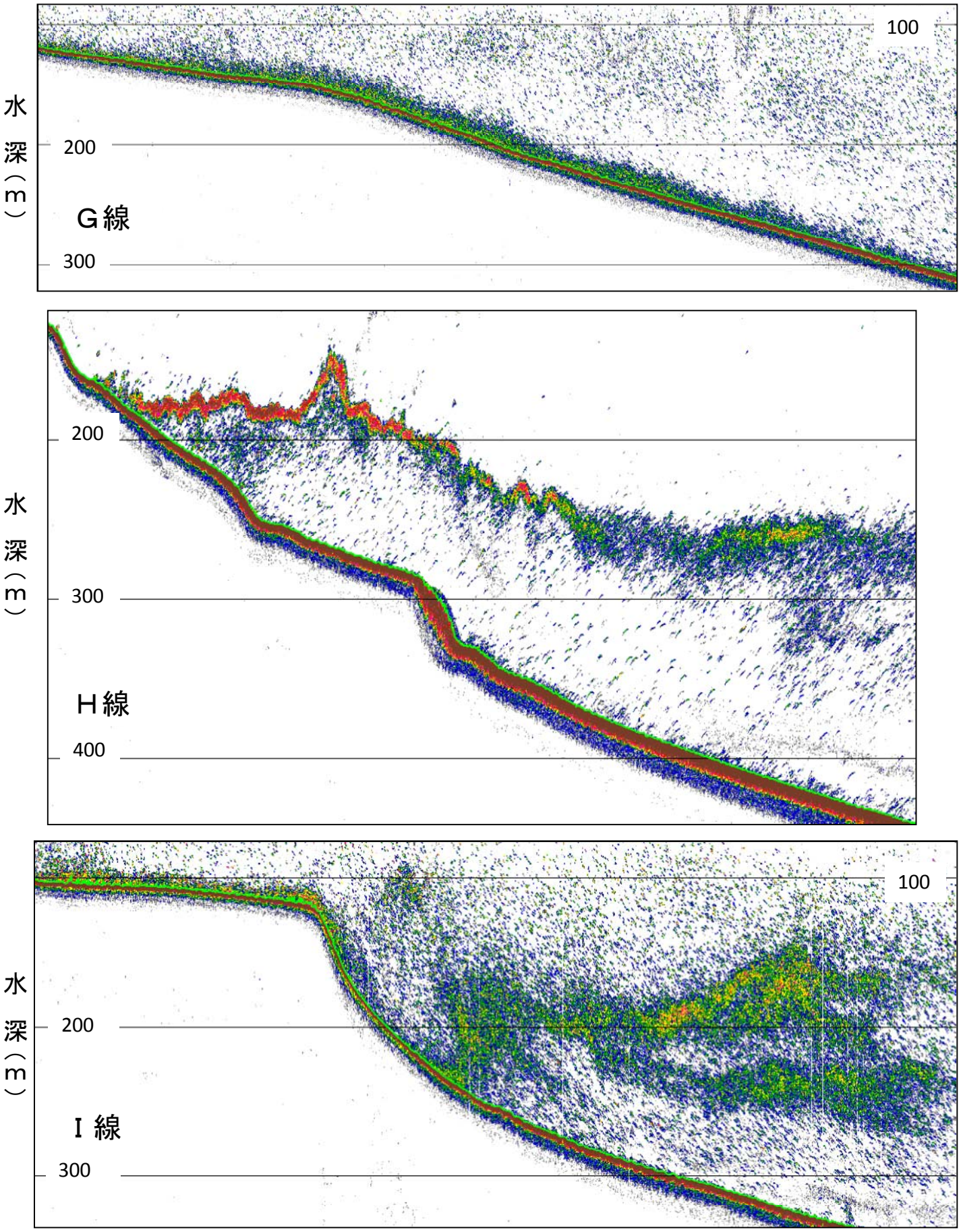

図2　魚群の分布状況（計量魚探画像）つづき

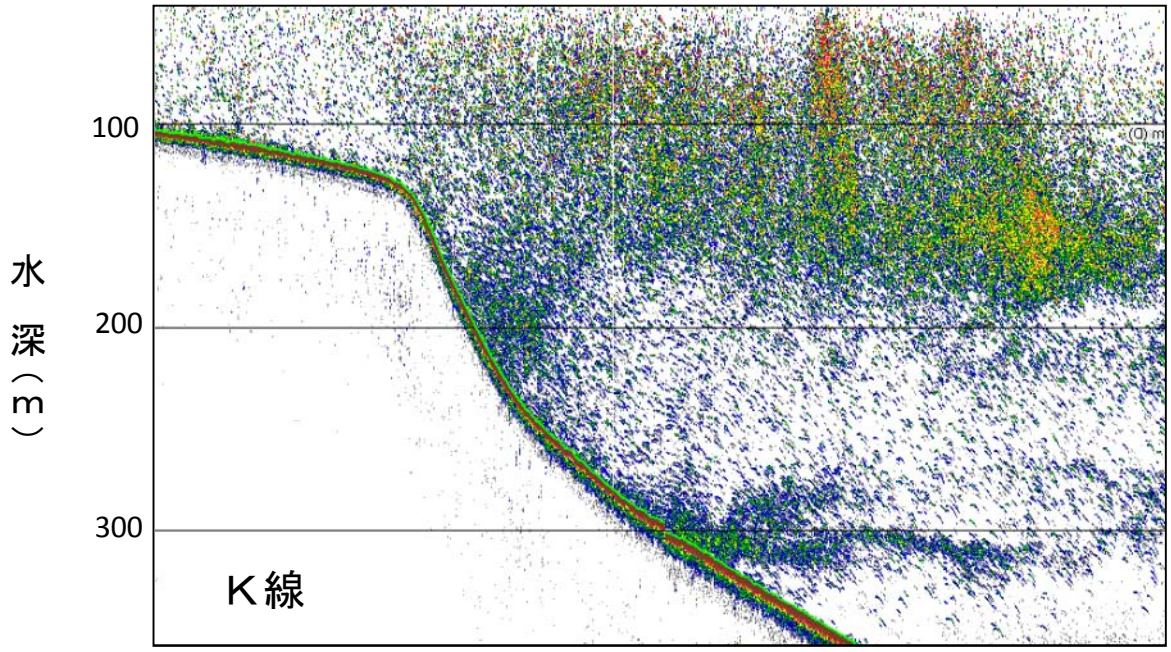

図2　魚群の分布状況（計量魚探画像）つづき

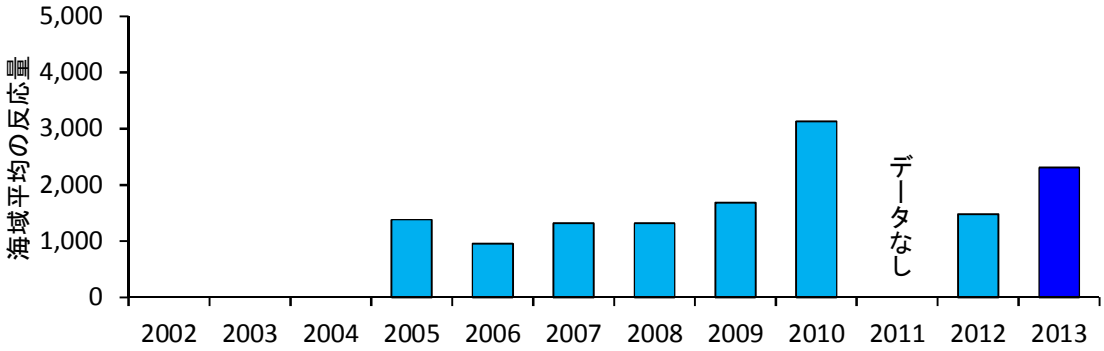

図3　海域平均の魚探反応量（S_A）の推移

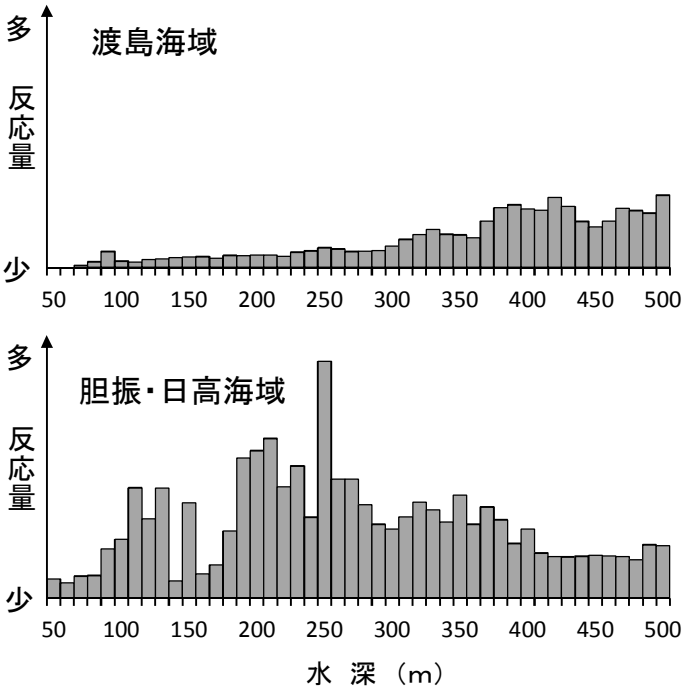

図4　水深別の魚探反応量

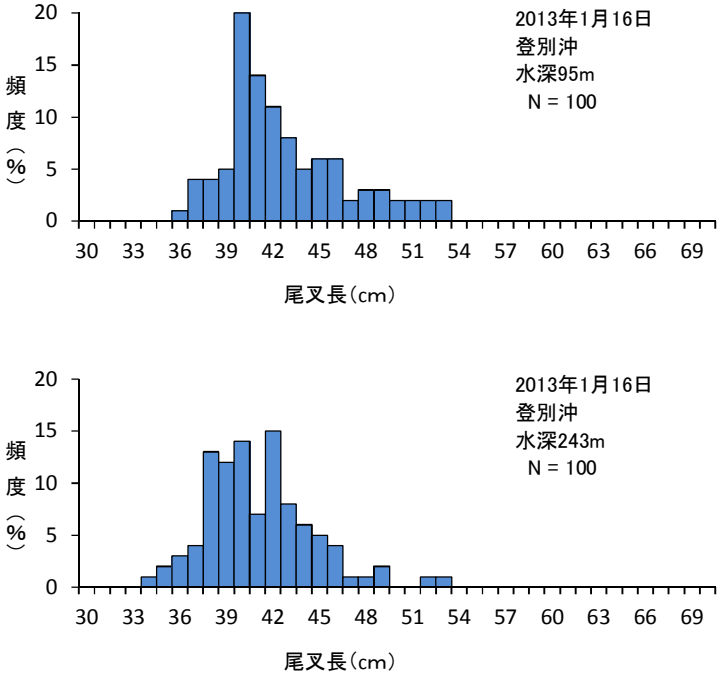

図5　漁獲物の体長組成